参加者からの感想

植物にとって環境条件が厳しいと思っていた海岸にも多彩な植物が生活していることを知って驚きました。これからも海岸を植物観察の新フィールドとしていきたいと思います。　井上賢一さん（兵庫県）

お盆に帰省した際、鹿児島の自宅近くの海岸を調査しました。漂着物も少なくきれいな海岸で昨年に比べ、グンバイヒルガオやハマゴウが繁茂、開花して南方の海岸を感じました。コンクリート護岸、テトラポットの設置などで植物の生育場所が限られており海浜植物の保全が必要だと思います。
森山義広さん（愛知県）

普段、海岸植物は観察することがないが、今回の調査参加でそれを知る良い契機となった。　近重雄さん（新潟県）

小さな花に目を向けて写真に収めることは、環境のことを考えるきっかけとなったので参加出来て良かった。
碁石海岸インフォメーションセンター（岩手県）

砂浜に植物があるとは考えてもみなかったのですが、意識して見てみるとたくさんの植物がありびっくりしました。
和瀬田伸一さん（神奈川県）

身近な海岸に目を向けるいい機会でした。海岸は、ゴミ拾いの場所というイメージだった子どもたちに、身近にある豊かな自然の良さを伝えることができました。
大社小学校の皆さん（島根県）

今まで海岸の植物はじっくり見たことがなかったので、今回観察してみて、いろいろな植物があるのがわかり面白かった。植物の名前があまりわからなかったが、興味がでてきたので、今後も海岸に行ったら観察したいと思った。　船越瑞保さん（神奈川県）

海浜植物が好きで、カメラをもって海岸線を歩きます。雑誌でこの企画を知ってうれしく思いました。　辻則子さん（福井県）

ゴミさえなければ綺麗な浜なのに‥‥
何種類もの海浜植物を見かけました。行政の看板もゴミ箱も設置してありました。
中塚順子さん（兵庫県）

写真コンテスト入賞作品発表

グランプリ賞　武良里恵子さんの作品

今年の自然しらべは、全国各地の海辺で撮影した7500枚を超える記録写真が届きました。その中には、海岸一面に花が咲く美しい海岸植物の写真、海辺の現状が伝わる写真、芸術的な写真や親子で自然しらべにチャレンジしているようすなど、すてきな写真がたくさんありました。調査期間中に撮影・投稿された全写真を対象にした写真コンテストの結果、右記の方々の写真が選ばれました。

グランプリ賞　武良里恵子さん（鳥取県）

日本自然保護協会賞　渡辺謙克さん（岩手県）
砂浜サイエンス賞　中村征夫さん（新潟県）
びっくりしたで賞　坂本　彰さん（高知県）
楽しくしらべました賞
NPO法人ラブ・ネイチャーズさん（静岡県）

各作品のコメントは、日本自然保護協会の自然しらべ2016の特設サイトに掲載しています。ご覧ください。

NACS-J自然しらべとは

子どもから大人まで、身近な自然に出かけて全国同じテーマでしらべる、市民参加型の環境教育プログラムです。「みんなで、みれば、みえてくる」を合い言葉に、日本自然保護協会が1995年から毎年続けている身近な自然の状況を知る「自然の定期健康診断」です。集まった情報を学術協力者の方とまとめ、日本の自然を守る活動に活用します。多くの方に自然を観察してもらうきっかけとなり、自然への愛着と関心を高め、日本の生物多様性を守ることにつながってほしいと考えています。参加者数はのべ約76,900人になりました。

自然しらべ2016 海辺で花しらべ！ 結果レポート編

●主催: 公益財団法人日本自然保護協会 ●共催: 読売新聞東京本社 ●協賛: 西日本旅客鉄道、サニクリーン、カロラータ ●誌面協賛: 『日経サイエンス』日経サイエンス社、『一個人』KKベストセラーズ、『ecomom』日経BP社、『旅の手帖』『散歩の達人』交通新聞社、『月刊ダイバー』ダイバー社 ●協力: 学研、モンベル、ニコン、富士通、このは（文一総合出版）、一般社団法人JEAN、E-ne!〜good for you〜（FMヨコハマ）、NEC presents The FLINTSTON（bayfm）、タッキー地球レポート（みのおエフエム） ●学術協力: 由良 浩（千葉県立中央博物）、向井 宏（海の生き物を守る会 代表、北海道大学名誉教授） ●資料提供: 澤田佳宏（兵庫県立大学大学院） ●写真提供: 青柳健太郎、松井淳一 ●助成: 東京ガス環境おうえん基金 ●後援: 環境省、文部科学省 ●参加者数:のべ3121人 ●調査地点: 466カ所 ●実施期間: 2016年5月1日〜9月30日

※このレポートで報告しきれなかった情報は、自然しらべ特設サイトに掲載しています。ご覧ください。　http://www.nacsj.or.jp/project/ss_top.html

あなたも自然を守る仲間になりませんか　会員募集中！

〒104-0033 東京都中央区新川1-16-10 ミトヨビル2F　TEL:03-3553-4102　FAX:03-3553-0139
umi2016@nacsj.or.jp　http://www.nacsj.or.jp

自然のちからで、明日をひらく。
日本自然保護協会
THE NATURE CONSERVATION SOCIETY OF JAPAN

会報『自然保護』No.555号（2017年1月1日発行）付録

自然しらべ2016

海辺で花しらべ！

結果レポート

みんなで海岸植物に注目してしらべた、2016年の自然しらべ「海辺で花しらべ!」。
海辺は波や風にさらされ、日々かく乱され続けている環境ですが、その環境に適応した植物たちが美しい花を咲かせて参加者を待っていてくれました。
調査期間の5月〜9月にしらべて送っていただいた写真は約7500枚。のべ3121人が参加して全国466カ所の海岸の情報を寄せてくださいました。ありがとうございました!

主催　公益財団法人日本自然保護協会　共催　読売新聞東京本社　協賛　JR西日本　Sanikleen　COLORATA
誌面協賛　日経サイエンス　一個人　ecomom　散歩の達人　旅の手帖　月刊ダイバー
協力　mont-bell　Nikon　このは　Gakken　FUJITSU　海の生き物を守る会　JEAN　E-ne!〜good for you〜（FMヨコハマ）　NEC presents THE FLINTSTONE（bayfm）　タッキー地球レポート（みのおFM）　後援　環境省　文部科学省

「自然しらべ2016」は、東京ガス環境おうえん基金の助成を受けて実施しています。

自然しらべ2016海辺で花しらべ!

全国の皆さんが送ってくださった海岸植物の写真から、日本の海辺のようすがわかってきました。注目ポイントをご紹介します。

“海から陸の連続性”がよさそうな砂浜は全体の20%未満

海寄り系どれか3種

ハマヒルガオ

ハマボウフウ

ハマニガナ

コウボウムギ

＋

陸寄り系どちらか1種

ハマゴウ

ハマナス

グンバイヒルガオ

海岸植物が生育する海辺は、海岸エコトーン（移行帯）と呼ばれます。陸から海へ環境が移行する独特の場所です。同じ海辺でも、内陸側とより波打ち際に近いところでは、環境の厳しさに違いがあるため、くらしている植物の顔ぶれも違っています。比較的波打ち際側に近い“海寄り系”と、内陸側の“陸寄り系”の両方が見られる砂浜は、海岸エコトーンの連続性が残されている多様性の高い砂浜であると考えられます。今年の自然しらべのデータのうち、海寄り系（ハマヒルガオ、コウボウムギ、ハマボウフウ、ハマニガナ）から3種類以上と、陸寄り系（ハマゴウ、ハマナス）が同時に見られた砂浜を選び出したのが上の図です。鹿児島から沖縄にかけては“海寄り系”（グンバイヒルガオかハマヒルガオ）と“陸寄り系”（アダン、オオハマボウ、クサトベラ、モンパノキ）のいずれかがある砂浜です。残念ながら全体の20%未満でした。花たちは「海から陸へのつながりのある」砂浜かどうかも教えてくれます。

外来種、砂浜で勢力拡大中?! オニハマダイコン

オニハマダイコン（北アメリカ原産）

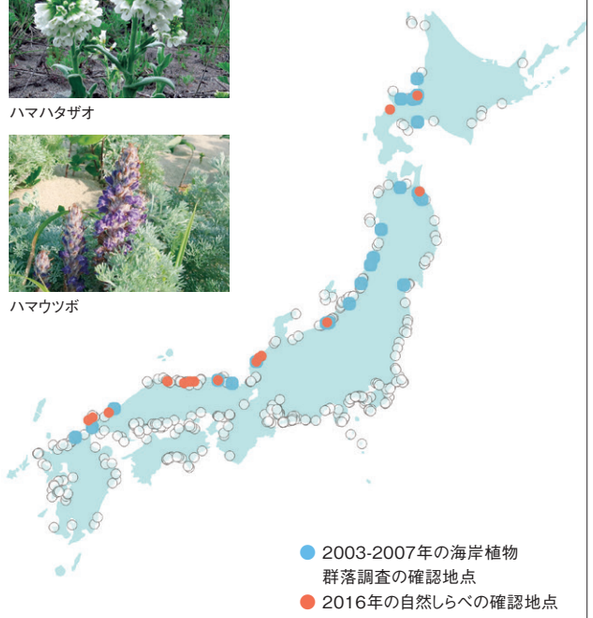
バクヤギク（南アフリカ原産）

海岸にも外来種が目立ちはじめています。コマツヨイグサ（北アメリカ原産）は、全調査地点の約3割、150カ所から見つかりました。同じく北アメリカ原産のオニハマダイコンは、1980年代に国内で確認されはじめ、近年分布を広げています。今回の自然しらべでは上の●のとおり、北日本を中心に67カ所から写真が寄せられました。
また、海外では砂浜を覆うほど広がって他の海岸植物を追いやってしまうと恐れられている南アフリカ原産のバクヤギク（●で表示）や、在来種への悪影響があることから2006年に外来生物法の特定外来生物として栽培・譲渡・販売・輸出入が禁止されたオオキンケイギクも9カ所から報告されました。全部で104種の外来種の報告があり、今後の拡大が心配です。

東北で減少か? ハマハタザオ

ハマハタザオ

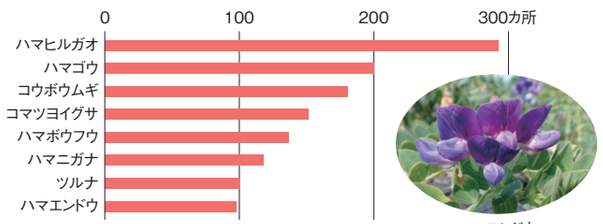
ハマウツボ



ハマハタザオは、旗竿のように茎が直立するアブラナ科のハタザオの仲間です。2003～2007年にNACS-Jが実施した「海岸植物群落調査」では北海道、東北～日本海側を中心に情報が寄せられていました（●で表示）。今回も西日本の日本海側を中心に19カ所（●で表示）から報告がありましたが、東北の日本海側からは情報がほとんどありませんでした。太平洋岸では、本種を絶滅危惧種に指定している県もあり、行方が気になります。カワラヨモギに寄生するハマウツボ（環境省の絶滅危惧Ⅱ類）は、「海岸植物群落調査」では2カ所（石川、山口）だけでしたが、今回は5県6カ所（青森、愛知、鳥取、山口、福岡）から報告がありました。今回、環境省レッドリストに掲載されている海岸植物13種類の報告がありました。これからも、大切にしていきましょう。

確認数ランキング ハマヒルガオが第1位

今年の自然しらべでは、海に接する39都道府県すべてから、情報をお寄せいただきました。全調査地点466カ所のデータを集計したところ、448種の植物（うち海岸植物92種）が見られました。報告が多かった種類の第1位はハマヒルガオ。みなさんがしらべてくださった北海道から九州の約6割の砂浜で見られました。鹿児島と沖縄からは、ハマヒルガオとよく似たグンバイヒルガオの報告をたくさんいただきました。



ハマエンドウ

古い地形図を見る機会がありましたら、ぜひその当時の砂浜の大きさに注目してみて下さい。昔の砂浜はずいぶんと広かったことに気付くと思います。かつての日本は砂浜と砂丘の多い国でした。浜の動植物たちにとっても楽園だったと思います。ところが、浜は潮風が吹いたり砂が飛んだりと、人にはやっかいな存在だったのでしょう、松が植えられ、堤防が築かれ、農地や宅地へと開発されてきました。いつしか、浜の生き物たちは、保護の必要な貴重な存在になってしまいました。皆さんから送られてきた写真からは、とりあえず主要な浜辺の種は、なんとかどこかで生きていることを確認することができて、少し安心しましたが、その反面外来種の増加やあってもよさそうな種がないのも気になりました。それにしても、ずいぶんと多くの方が浜に足を運んでいただき、たくさんの写真を撮って下さいました。海岸の植物を見続けてきたものとして嬉しく思います。今回訪れた浜のファンになって、これからも末永く見守っていただければと思います。

由良 浩（千葉県立中央博物館）

このページの海岸植物の撮影者の皆さん: 大表章二さん（北海道）、近重雄さん（新潟県）、柳内亮子さん（東京都）、伊藤忠彦さん（神奈川県）、西浩孝（愛知県）、清末幸久さん（島根県）、増原啓一さん（山口県）、渋田和美さん（福岡県）、笛田美和子さん（鹿児島県）